

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------|--|---|--|--|---|--|--|--|--|--|---|--|
| 子ども達に願うこと | ・体を動かすことを楽しむ。 | ・くまさん歩きで手を広げてしっかりつく。 | ・体の動かし方ややり方を覚えて、動くことを楽しむ。 | ・出来るようになってきたことを喜びながら楽しく体を動かす。 | ・自信をもって体を動かす。 | ・鉄棒に興味を持ち、楽しむ。 | ・日々の生活の中で、遊びの感覚で体を動かして楽しむ。 | ・できなくてもやってみようという気持ちを持つ。 | ・動くことを楽しむ。 | ・運動支援での自信、意欲、経験を生かし、日々の生活も意欲的に生活する。 | ・できるようになったことに自信を持って発表する。 | ・進級への期待を持ち、体を動かすことを楽しむ。 |
| 廊下 ホール | ①移動時に、くまさん歩き・カンガルー跳びをする  | ① ②グーパージャンプ ③新幹線くまさん | ①②③ ④ラッコ ⑤ワニさん | ①②③④⑤ ⑥グーチョキパージャンプ | ①②③④⑤⑥ | ①②③④⑤⑥ | ①②③④⑤⑥ ⑦廊下にくもの巣 | ①②③④⑤⑥⑦ ⑧廊下に線路のテープを貼る | ①②③④⑤⑥⑦⑧ | ①②③④⑤⑥⑦⑧ | ①②③⑤⑥⑦⑧ | ①②③④⑤⑥⑦⑧ |
| 保育室 (リズム室) | ①グーパー遊び | ① ②鉄棒 | ①② ③くもの巣くまさん | ①② ④くまさん新幹線をして遊ぶ | ①②③④ ⑤サーキット遊び | ①②③④⑤ | ①②③④⑤ ⑥床に○印を貼る(カンガルー跳び) | ①②③④⑤⑥ | ①②③④⑤⑥ | ①②③④⑤⑥ | ①②③④⑤⑥ | ①②③④⑤⑥ |
| 園庭 | | ①鉄棒 | ① ②年長児の逆上がりの練習を見せもらう | ①② | ①② | ①② | ①② | ①② | ①② | ①② | ①② | ①② |
| 配慮 保育士の関わり | ・ジャンケンゲームを生活の中に取り入れ、落ち着いて活動を始めたり、話を聞いたりできるようにした。 | ・できたことは褒めるようにする。 ・移動時に手の広げ方に気をつけて、「くまさんに変身していこう」と声をかけ、興味を持ち楽しんでできるようにした。 | ・トーマス新幹線は後ろ向きであることを知らせる。 ・支援後に園庭で鉄棒にぶら下がって遊んだり、年長児の逆上がりの様子を見たりして、鉄棒を身近に感じさせる。 | ・やり方がわからない子には、「かかとを上げて静かに跳ぶよ」(カンガルー跳び)など具体的な言葉で知らせるようにした。 ・年中、年長の動きを意識して見るようにした。 ・午睡の前後などにもわにさんができるように声をかけた。 | ・「トイレまでくまさん新幹線」と声をかけ、廊下を移動する時にはいろいろな動きをするようにした。 ・担任がわにさんで追いかけたり、サーキットにしたり、楽しんでできるようにした。 | ・子ども達が興味を持ってできるように、意図的に運動用具を出しておくようにした。 ・運動会の練習などでは、年中、年長の様子を良く見たり、応援したりするようにした。 | ・毎日の遊びの中で楽しんでできるように、環境の工夫をした。 ・できないことに挑戦し1回でもできた時に声をかけると、満足感や達成感が自信につながり、「1回の大切さ」を感じた。 | ・できない子や怖がる子がいるが、無理させずに一人ひとりの状態や気持ちに合わせて、「楽しい、又やりたい」という気持ちを持てるようにしている。 | ・いろいろな動きを遊び感覚で楽しめるようにしている。 | ・気持ちが先走っている時には声をかけ、話をしっかり聞いてから行動できるようにした。 ・一人ひとりのレベルに合ったものを提案するようにした。 | ・やりたい時にすぐにできるような環境を作っておくようにした。 ・自信を持って発表できるように励ますようにする。 ・参観日に親子で運動支援を楽しんでもらい、家庭でもやってもらえるように声をかける。 | ・いろいろな環境を用意したり、楽しみながら体を動かせるような言葉がけをしたりして、保育の工夫をしていく。 |
| 子どもの変化 | ・「疲れた。」とすぐにやめてしまう人もいる。 ・カンガルーが好きで、子どもから「カンガルーやりたい！」とリクエストすることもあった。 | ・くまさんの手をパーにすることがわかり、楽しんで動いている。 ・子ども達が自らくまさんやカンガルーに変身して動いている。 ・ジャンプをするときに「おなかをみればいいんだよ」とやり方を教えあう姿があった。 | ・くまさん歩きとくまさん新幹線の区別がなかなかはっきりしない。 ・グーチョキパーが分からない子も、見よう見真似でやっている。 ・「らっこさん」をやるときに「おなかをみればいいんだよ」とやり方を教えあう姿があった。 | ・年中・年長児の姿を見て、「両足を怪我したワニさん」をやってみようとする姿がある。顎を床に近づけようとしている。 ・動くことが面白くなってきて、自分のできる動きを楽しんでいる。 ・遊びの中で鉄棒をして遊ぶ子が増えてきた。 | ・ラッコさんでの移動を「できない」と言っていたが、しばらく続けると「廊下からなら滑るよ！」「廊下からやろう！」と言う子につられ、進んでやる子が増え、意欲が出てきた。 ・鉄棒ができる子に刺激され、やってみようとする子が増えてきた。 | ・鉄棒では、前回りより、りんごのぶら下がりを好んでやる姿がある。 ・年中児、年長児の鉄棒の様子を見ることが意欲につながり、鉄棒をやってみたい気持ち大きくなり、遊びの中でも自然にやるが多くなった。 | ・担任に褒めてもらうことが、できなくても自ら鉄棒に挑戦する気持ちになっている。 ・ワニさんは声をかけなくても、顎を床に近づけて進めるようになった。 ・できないからやらなくても、やってみようという気持ちで変わってきた。 | ・くもの巣カンガルーは男女で差があり、くもの巣があっても線路をまっすぐ進める子、線路を無視してくもの巣に対してまっすぐに進む子がいる。 ・褒めてもらうことで、怖がっている子も、頑張ってみようとしていた。 | ・柳澤先生には教えてもらっていないことでも、年中、年長児を見て、見よう見真似でやってみようとする。 ・担任が呼びかけなくても、子ども達が自分から進んでグーチョキパーをしたりしている。 | ・できる子どもできない子ども、友達の前に出てやってみようとする。やりたい意欲が出てきて、喜んで動いている。 | ・全員、少し補助をすれば前回りができるようになった。 ・お家の方に見てもらうことが嬉しくて、自信を持ってやる姿があった。また、お家の方と一緒に運動をして遊んだことがとても楽しかったようだ。 | ・体を動かすことの楽しさが分かり、嫌がる子もなくなった。怖がっていた子も、無理なく遊びながら体を動かしてきたので、自分から取り組むようになってきた。 |